

最高裁が特許適格性に関する AAM 事件の裁量上訴を却下

2022 年 6 月 30 日
JETRO NY 知的財産部
石原、赤澤

特許適格性が争点となっていた American Axle & Manufacturing (AAM) v. Neapco 事件に関し、最高裁判所は 6 月 30 日、裁量上訴を却下すると発表した。

この事件では、自動車用ドライブシャフト（プロペラシャフト）の製造方法の特許クレームに関して特許適格性の有無が問題となっていた。5 月に訟務長官（Solicitor General）が最高裁による審理を求める意見書を提出し¹、知財関係者の間では最高裁が裁量上訴を受理することへの期待が高まっていた。最高裁は 6 月 30 日付の命令書²で裁量上訴の却下を通知し、却下の理由は付されていない。

これにより、特許適格性に関連する特許取得はさらに困難になったと指摘されている。

2014 年の Alice 事件判決以来、最高裁は特許適格性に関する事件の裁量上訴を全て却下しており、特許適格性を巡る状況は混沌としている。議会による立法や USPTO によるガイダンスの策定により、適格性法理の明確化がはかられることが期待されている。

（以上）

¹ https://www.jetro.go.jp/ext_images/_Ipnews/us/2022/20220527.pdf

² https://www.supremecourt.gov/orders/courtorders/063022zor_5he6.pdf